

送 辞

冬の厳しい寒さも和らぎ、校舎にそよぐ優しい潮風の中に、春の訪れを感じる今日の佳き日、小名浜第二中学校を巣立たれる98名の卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

皆様は、中学生として過ごしてきた日々をどのように振り返っていらっしゃいますか。夏になると潮風に包まれる校舎。仲間と共に学んだ教室。何度も上り下りした階段。クラスの友達とたくさん話した休み時間。肩を組んで笑い転げた日々。今、数えきれないほどのたくさんの思い出が頭の中を駆け巡っているのではないのでしょうか。それは卒業生の皆様だけではなく、私たち在校生も同じ思いです。先輩方と共に過ごした月日はかけがえのないもので、数々の思い出がまるで昨日の日のように蘇ってまいります。

私たちが入学したばかりで、新しい環境に慣れず、不安や緊張を抱いていた時、優しく手を差し伸べてくださったのは、先輩方でした。そのとき、私たちの心には「感謝」の気持ちとともに、「憧れ」の気持ちがあふれてきたことを覚えています。年齢がさほど変わらないのに、どれほどその背中が大きく見えたことでしょうか。行事のたびに先輩方の存在の大きさを知ることになりました。

最も衝撃を受けたのは、潮音祭での合唱です。聴いている私たちが息を呑むほどの素晴らしい歌声に、思わず聴き惚れてしまったのを、今でも鮮明に覚えています。その歌声には、「これこそが中学生なのだ」という私たち後輩へのメッセージが、込められているように感じました。

先輩方を思い出すと、いつも「一致団結」という言葉が思い浮かびます。合唱コンクールの練習で、各クラスが同じ目標に向かい、努力を積み重ねる姿。部活動で、大きな成果を残そうとし、声をかけ合いながら練習に励む姿。委員会活動で、二中をより良くするために、積極的に意見を出し合う姿。受験という大きな壁に三学年全体で立ち向かい、それをみんなで乗り越えようとする姿。最高学年としての強い絆を感じました。

振り返れば、日々の生活の中で、先輩方の姿は私たちの目標であり、「支え」となっていました。委員会活動で私たちの一歩先を行き、お手本を見せてくださったこと。部活動や行事で共に喜び、涙を流した日々。すべてが今では大切な思い出となっています。

私たち在校生にとって、皆様の存在はとても大きなものでした。私たちはそんな先輩方に甘え、頼りにし、その背中を追うばかりでした。しかし、今度は私たちが先輩方の後を引き継ぎ、小名浜第二中学校を引っ張っていく存在とならなければなりません。不安もありますが、先輩方の後輩であることを誇りに、先輩方のように大きな目標に向かって切磋琢磨し、互いを思い合いながら、新たな二中の明るい未来を築いていけるよう努力してまいります。

卒業生の皆様は、これからそれぞれの新たな道に進み、夢や目標に向かって羽ばたいていかれることと思います。これからの道のりには、様々な壁があることでしょう。しかし、小名浜第二中学校で学んだことや仲間と共に培った絆で、必ず乗り越えられるはずです。私たちも先輩方が作り上げてきた伝統を引き継ぎ、小名浜第二中学校のより一層の発展をここにお約束いたします。

最後になりましたが、卒業生の皆様のご健康とさらなるご発展を心よりお祈り申し上げ、送辞といたします。

在校生代表